

第5次千早赤阪村総合計画策定のための関係団体ヒアリングまとめ

ヒアリング対象団体	
A：無記名	K：千早赤阪村防犯委員会
B：千早赤阪村を愛する会	L：社会福祉法人 千早赤阪村社会福祉協議会
C：千早赤阪村農振連絡協議会	M：千早赤阪村民生委員児童委員協議会
D：千早赤阪村文化協会	N：有害鳥獣対策協議会
E：千早赤阪村国保診療所、千早診療所 (指定管理者：公益社団法人 地域医療振興協会)	O：観光協会
F：医療法人やすらぎ会 植田診療所	P：下赤阪棚田の会
G：吉田歯科医院	Q：社会福祉法人 千早赤阪福祉会
H：千早赤阪村食生活改善推進員 みつば会	R：千早赤阪村体育協会
I：大阪府森林組合（南河内支店）	S：千早赤阪村消防団
J：千早赤阪村シルバー人材センター	T：千早赤阪村人権協会

1. 活動の内容

- A●楠公史跡等の維持管理に関する事業／遺跡等の研究に係る事業／講演会、研修会、展示会の開催及び図書等の発刊に関する事業／千早赤阪村立郷土資料館の維持管理に関する事業／その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
- B●年2回、ウォーキングとチーズフォンデュ作り体験会の開催。山の春・夏まつりや千早赤阪村文化祭に文化協会会員として参加。昨年度は、がんばる地域応援事業補助金活動として、小学校でのドローン教室や不本見神社七摂社復興記録空撮、奉建塔ライトアップと空撮を実施。今年度は竹灯籠の展示と点灯を開催予定。
- C●四季ごとの新鮮な野菜・果実・加工品などを観光客や村民に安く提供し、農業の振興につなげる。
- D●会員の文化作品の展示会・コンサート開催の企画・立案、その他目的達成のための必要な事業を行う。昨年度はくすのきホールにて文化祭を開催。
- E●診療業務、村国保運営協議会等村委嘱委員、村認知症サポート医、村産業医、学校医
- F●診療業務、学校医
- G●村国保運営協議会等村委嘱委員、学校歯科医

H●「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、生涯における健康づくり活動を食を通して地域に推進しているボランティア組織。

I●地域の森林整備から河内材の木材流通、木材利用。

●都市部での環境譲与税事業における、河内材の木材利用。

●地元で求められること、林道の適切な維持管理。

●原木市場の維持とチップ事業の再稼働。

J●高齢による退会等で、人材不足や退職年齢の引き上げに伴う入会者の減少。

※村広報誌への掲載、チラシ等の配布、野外活動センターのイベントを開催し、人材センターのPRを行う。

●就業先の確保の開拓。地域住民へ就業活動のPRを積極的に行う。

K●地域住民に不安や危険を及ぼす事故・災害等についても被害を防止し、「安全で住みよい町づくり」をめざした活動を行っている。

L●住民や福祉関係者との地域ネットワークを駆使し、住民全体の共生社会の実現をめざした、住民の自助・互助・共助の力の向上。

M●住民主体の活動に参画し、個別支援及びグループ援助活動や、民児協や委員を認知してもらう活動を行っている。

N●野生鳥獣の農林産物に対する被害状況等を適確に把握し、村内における被害対策のための計画等を樹立することにより、有害鳥獣対策を適確かつ効率的に行う。

O●村内の観光業の発展、PR。

P●日本の棚田百選に選定されたエリア内の遊休農地の保全活動や、景観植物の育成等に取り組む。高齢化による耕作者の負担増を踏まえ、塾の開校や、村外との交流人口増に向けた夢灯り事業、田植えの神事等を開催し、村のアピールにつなげている。

●オーナー制度・企業との連携

Q●保育所、子ども園（げんきこども園）の運営。

R●村民の体力の向上とアマチュア精神の高揚を図り、スポーツの振興に寄与する。

S●村内における火災への消火防衛出勤、台風等による風雨災害への警戒出勤、山岳遭難者救助支援出勤と管内の事故系への対応出勤等、突発事案に活動する。

T●広く住民に人権の高揚を図るため「啓発」に努め、また、人権侵害を受けた人への救済機能である「相談」や関係機関との協力・連携のもと、「自立支援」を図るなどを通じて、すべての人の人権が尊重される社会の実現をめざす。

2. 今後、力を入れたい活動

- A ●各史跡、文化財等の案内看板の作成や、上赤坂城、城郭サミットの開催。楠公誕生地を歴史的価値のある場所にしたい。
- B ●村内で調達できる竹を使って竹灯籠を作り、行政、村民の協力を得て村内各所に展示、点灯させ、「竹灯籠の村 千早赤阪村」を村内外にアピールし、知名度、ブランド力を高めたい。
- 竹灯籠やその他竹製品を村の特産品化し、ふるさと納税のリターン品や村内各所で販売ができる製品に成長させたい。
 - 眠っている貴重な財産を見つけ出せるような活動を実施していきたい。
- C ●農家の高齢化と放任農地の拡大、村の農業の荒廃を防ぐため、農業者が助け合って問題解決を目指すことを目的とし、活動の一環として、地産地消と小規模農家の運営を推進するため、農産物直売所の運営を行っている。
- 山間、農村地域に位置する地理的条件から、自然いっぱいでのどかな環境、雄大でゆったりとした時間の移ろい、素朴な村民の人情が満喫できる、昔に戻った感じが味わえる直売所をめざしている。
- D ●今年度はコロナ禍で、対面の文化祭を避けざるを得なかったが、文化振興には、文化活動の継続が重要との判断で、ネットを使ったリモート文化祭「ウェブ文化祭」を実施。
- E ●国保診療施設として、医療サービスの提供にとどまらず、地域包括医療・ケアの推進に取り組む。
- F ●地域医療をできるだけ継続し、地域住民の健康維持を図る。
- G ●医師と患者との信頼関係を保ち、個々の患者の以前のデータや日頃の情報などから、その人を理解して診察をしていきたい。
- H ●新しい会員の増員。地域に出向いて災害レシピの普及。ホームページに活動内容を掲載。
- I ●森林組合の活動拠点（木材共販、フォレスト）の事業充実。
- チップリサイクル事業に再稼働（一般破棄物の資源化、ごみ量削減）。
 - 森林整備事業の従事者の育成。
- J ●会員の増強。村広報誌活用。草刈機械や剪定作業の講習会開催（村民参加無料）。会員の健康管理等見守り健康増進。

K●富田林警察との連携。街頭啓発活動はもとより、村内の街頭犯罪発生状況や不審者情報などを提供してもらう。

●青色防犯パトロールの運行。青色回転灯を装備した車両で、自主的に防犯パトロール活動を実践する。村内パトロールをし、防犯意識の向上を図っている。

L●小地域福祉活動の充実。公民館を利用したサロン活動による住民の居場所づくり。

●C S Wや生活支援コーディネーターを中心に、住民とともに地域福祉について話し合い、地域の課題抽出、解決に取り組む。

●福祉支援者等の担い手の確保として、情報発信や担い手育成の福祉研修の充実を図っていく。

●若年層も参画しやすい福祉事業の企画を行い、新たな福祉支援者の獲得に向けたアプローチを行う。

M●地域サロンでの活動や各地区での行事参加、多彩な記事と写真を多く掲載した広報紙の発行、こども園でのふれあい交流会（七夕・餅つき等）を通じた、地域住民への周知活動。

N●有害鳥獣による被害の情報収集や有害鳥獣被害防止計画、鳥獣保護、鳥獣対策実施隊に関すること。

O●去年パンフレットを作成したが、まだまだP R力不足。予算は少ないがホームページの作成を検討中。

●アウトドアスポーツの環境を作る（トレイル・自転車等）。

Q●子育てしやすい村づくり。子育て支援事業。

●子育て教育講演会の開催。専門講師による教育講演会。

R●村のイベント・講習会等スポーツに関する行事の実施。

●各種連盟・部の発展と連絡協調。

●体育指導者相互の親睦と研修。

●その他、目的達成のための必要な事業。

S●団員の活動による事故、負傷の発生の絶無を図りたい。

本村で起こり得る消防現象への実態運用力と、それを支える練度の向上を図りたい。

T●コロナ禍の現状から、差別意識の広がりには注意したい。また、「〇〇警察（自粛警察等）」と呼ばれる現象にも、注意を払うべき。

●お互いを尊重し合う村づくりに努めたい。

3. 今後必要な活動の取り組み、課題

A ●村内の史跡・文化財の認知度を高め、地域の活性化を進める。

●山城として残る遺構の整備や本丸跡からの眺望の良さを活かし、観光客の増加に取り組む。

●資料館の来館者から楠公像の所在地をよく聞かれる。楠公誕生地に楠公像を移設することで、観光客の増加につなげたい。村政と連携して移設を進める必要がある。

B ●竹の提供や製作協力、製品の展示／点灯場所の提供等、村民及び行政に協力を得る必要がある。

●個人の自主性と公共性が必要であることは前提条件であるが、行政の支援が必要。例えば、資金面や役場内や地域村民との調整、国や府等との調整など。

C ●設立当初から 30 有余年、農家の高齢化と放任農地が多くなり、直売所も他市町村に多くでき、村まで足を延ばす人も少なくなりつつある。道の駅「ちはやあかさか」との合併問題は、一年以上経過しても結果が出ていない。

●直売所周辺で増える放任田を花畑にし、金剛山に来る人や村の人に足を止めてもらうことで直売所に寄ってもらえるよう、どこかの一角からでも村をきれいにしたい。

D ●会員の文化、芸術活動をさらに深度化し、村のイメージアップを図る。

●教育・文化の育成、生涯学習の充実、健康の充実、村の活性化の促進を図るための取り組みを、強化していきたい。

E ●関係機関と連携しながら、村の地域医療の継続を図る。

G ●今後も、目の前の患者さんをきっちりと失敗なく治療していきたい。

H ●災害レシピの普及。食を通して人との交流を広める。会員の確保。

K ●村の危機管理基本マニュアルの作成。

●危機事象に対しての個別にマニュアル化することの推進。

●職員の初期対応や緊急連絡体制等の確立を行い、緊急時に備えている。

L ●住民のつながりの希薄化や高齢化が進む中、住み慣れた地域で生きがいを持ち、生活できる支え合いの仕組みづくりの構築が求められる。住民が情報弱者とならないよう ICT の普及や、重層的相談支援体制の整備に取り組んでいく。

M●高齢化に伴う、地域での困難ケースが増加している現状。月1回の定例会における、委員同士の連携や課題を抱える世帯への支援方法等の検討を、これまで以上に実施していく必要がある。地域における見守り活動の支援体制の構築や体制強化の取り組みも必要。また、災害時要援護者の支援体制づくりも重要な課題であり、要援護者の把握や要援護者のマップ等の作成、避難支援者の確保などの取り組みも求められる。

N●鳥獣からの農作物被害防止を図るため、「防護対策」「生息環境管理（寄せ付けない）」「捕獲対策」等の総合的な被害防止策を進める。また、農業者自身が被害対策への意識を高め、休耕地の刈払い、収穫残渣の除去等を含め総合的な対策に取り組むよう、啓発等を行う。

●鳥獣被害対策実施隊に対する支援を継続して行う。

O●大阪南部の近場の観光地になるべく、PRとその土台となる企業や店の誘致、協力が必要。

P●大学と連携した地域活性化と農地保全。大学に興味を持ってもらい、ボランティアセンター等と遊休農地で植付を行う。

●会から大学への講師派遣。

●農作物の鳥獣被害対策。

●農村での宿泊を含む農村域の活性化。

Q●子育てしやすい村づくりのため、一時保育・病後児保育等、保育サービスの充実を図る。

●学童保育の充実に協力体制をとる。

●幼・小の連携を図り、村独自の特色ある教育活動を推進していく。

R●村民の誰もが生涯を通じて、いつでもどこでも気軽にスポーツに親しみ、健康で明るく活力に満ちた村民生活が実現できるよう、努力していきたい。

●村民の誰もが参加できるイベントの開催。ニュースポーツの発掘。

S●村内の半数ぐらいの自主防災組織とは、間欠的に消防団と合同で防災訓練を実施してきたが、村内の企業や学校等とは、合同で消防・防災訓練を実施できていない。「行政・役場」は知る限り「合同」も「独自」にも37年間でできていない。村づくりの観点から言えば、消防関係以外のいかなる団体・部署とも連携がないため、今後はこの解消に関係者の協力を求めている。

●千早赤阪村の「大地震対策の進捗」は、具体的対応策はほとんど取れていないとみるべきで、「千早赤阪村地域防災計画」案は、消防団では書類として承知しているに過ぎない。防災計画書から、消防団が本当にどの部分までできるのか、現実と「絵に描いた餅」の見極めを検討し提言できるよう、来期はその作業にかかる考えである。

●消防団の各責任者に交付されている「避難行動要支援者名簿」の活用について、個々の検証も十分ではない。平成 29 年に起きた台風では、高齢者避難の現実で苦杯を飲んだ。一つは、高齢者と家族に距離（村外）がある避難困難者の場合と、その時期に来村した集団研修者の避難問題が同時発生し、我々の連携問題や情報の共有化がリアルタイムで図れなかった。

二つは、名簿や書類があればできるという感覚は、いざという時に役立たないことを学んだ。個人情報の保護で、法の遵守主義の間に埋没している感があり、非常に扱いづらく、今後の取り扱いに改良を要すると思う。

T●人権標語ポスターの募集、表彰等を長年続けているが、過去の受賞者に依頼して、その後の人権問題に関するコメントや、今の小・中学生あてに励ましの言葉をもらうことはできないか。

4. 千早赤阪村のむらづくりについて

A●現在、表に出ている文化財等は保存・顕彰を行う。

- 埋もれている文化財は調査を行い、文化的価値を高めるため、村、府、国指定に登録するなどの努力をしてほしい。
- 歴史や文化財に注目を集めることで、観光や移住につなげてほしい。
- 村誌について、発行後 40 年が経ち、新しい文化財が増え、また、調査等を実施するなど努力していくことで、村の歴史も変わっていく。ふる里の歴史を勉強し、生涯学習等を充実させていくためにも、新しい村誌を作成する必要があると思う。

B●現状、大きなお金を掛ける事業は避けるべきで、村にある財産、放置されているような財産を活用する方法を考える。

- 竹などは放置されている財産。「公の空間」も含めて、建物の利用をもっと促進すべき。くすのきホールのホワイエ（ロビー）や奉建塔、富田林女子高校跡地、多目的広場内事務所等。

C●村には、田畑、山林が豊富にあるが、活用されずに放任される方向にある。要因として、山林は木材価格が低すぎる。農業は手間の割に利益が少なく過重労働。お金にならないこと、しんどいことに興味を示さず、後継を放棄している若者にある。

- 営々と築かれた農業技術や林業技術を絶やしてはならない。土の質、雨の量、気温に左右され、思い通りにいかない農業は、数年の失敗の積み重ねが必要である。農振連絡協議会は農業技術のプロ集団である。村の特質を絶やさないために、村議会議員は村の現状をもっと勉強してほしい。

D●文化や芸術での「ものづくり活動」は、体や指先の運動、五感を使った思考力を高める効果が大きく、教育や文化の育成が図れ、生涯学習として継続することで心身の健康の維持促進、元気な人づくりを図ることができるため、村の活性化に結び付けていきたい。

- 活動状況などを広く案内できるツールを用意し、より多くの人に文化協会を認知してもらい、「文化・芸術のものづくり」に一緒に参加してもらえる仲間づくりを促進していく必要がある。

E●すべての地区を訪問することで診療所の存在をアピールし、すべての住民とのコミュニケーションを図る。

- 訪問診療の患者が少ないので、訪問診療の周知とかかりつけ医の推進を行う。
- 在宅医療に力を入れ、介護予防事業、包括的支援事業への積極的参加をする。また、訪問看護ステーション、近隣医療機関と連携を強化し、在宅医療の充実を図る。
- 地域住民が住み慣れた環境で安心して生活するための継続的な医療の提供を行う。

- F ●小吹台地区では、核家族や死別による単身世帯が増えてきた。認知症増加の実感があり、それにより通院していた人がドロップアウトしている現状もあるため、診療所と村（地域包括支援センター）が連携して支援する体制をより充実していく。
- 高齢者の多い村では、患者の家族や生活環境もわかったうえで診療を行うことにより、安心感を持ってもらうことができているため、できる限りその体制を継続していく。
- G ●自分ができる限り診療を継続し、高齢者が多いため、高齢期の人をしっかりと診ていきたい。
- H ●防災対策の充実。
- 高齢化率の高まりを踏まえ、簡単に調理できるレシピの普及。
- I ●観光資源 金剛山（登山）における、アクセス道（伏見林道等）の整備充実（村？）
- 課題として、森林境界の保全。
- 都市部市町村連携による森林環境譲与税の千早赤阪村の森林整備への貢献。お返しに千早材の提供や子どもたちへの林業体験（流域で攻めるなら、大和川沿の市町村（松原市、羽曳野市、藤井寺市、八尾市。お金が大きいのは東大阪市、堺市、大阪市））。
- コロナ情勢下、リモートワークの推進により、鉄道がない通勤不利条件が緩和されている。
- J ●地域の活動を活性化するため、地域で働くことを通じて、社会参加、地域の活性、生きがいづくりになる。近所づきあいが強くなる。潤滑になるような人材センター組織づくりをする。
- 村民の情報の共有（Wi-Fi）。
- K ●防犯・防犯対策の充実。防犯カメラ、防犯灯の設置。皆が防犯対策を心がける。
- 環境保全、住環境の充実。「特殊詐欺被害防止」の施策。還付金詐欺の多発により、特殊詐欺に気をつける。
- L ●地域福祉活動をより活性化させるため、地域福祉のさらなる充実が必要であり、地域拠点の確保や環境整備、活動者育成に向けた取り組みが求められる。
- M ●近年、高齢化に伴う介護保険サービスに関する相談や、生活困窮世帯（8050問題など）の相談が増加していることから、地域での見守り体制づくりが必要である。また、避難行動要援護者名簿を活用し、災害発生時に地域住民同士で支え合える仕組みづくりを、行政とともに進めていく必要がある。
- N ●定住促進につき、子育て世代に補助金の充実・強化。

○●イノシシの駆除においては、地域内での交流が生まれたように思う。同様に、同じ目的を地域に課し、最低限の予算をつければ、一定の効果が出ると思う。人口減少と高齢社会は、地域グループの協力で乗り切れる部分も多いのではと思う。

●近年、若年層の移住者が多々いるが、彼らに可能性を探し見る。夢物語を言い出すのかもしれないが、仕事を与え、地域の責任を与えてみてはどうか。

P●ハートフルアグリの推進（農と福祉の連携）

●農を通じての教育

●稲わらを天王寺動物園・ワールド牧場（牛舎）へ寄贈

●SDGsへの発展

Q●村の活性化のために若者が移住したくなる魅力ある村づくりをしていく。例：インターネットをフル活用し、テレワークのできる村づくり。ベンチャー企業の誘致等。

●村の強みを活かした事業。例：金剛山を利用した観光PR。林業と教育を一体とした教育充実産業を誘致。

R●村民の健康の維持向上のため、全村民に散歩を推奨。村行政の医療費用軽減につながる。年齢別、体力別など段階的に3コース程設定し整備する。ポイントの獲得で表彰（表彰状、商品授与）。

発展していけば、近隣市町と帯同で文化遺産をめぐるコースを設定、イベント化する。（観心寺、延命寺、河合寺等文化遺跡などへ行くコース等を設定）

S●村づくりの課題については、何をやるかの題目探しよりも、玉碎的信念がいるのではと思う。

●本村行政部署において、「何かを提案・提言」しても、次にトライできないケースが多い。できない、できそうにない、人・予算・例がない、法整備ができていない、の発想に無意識に導かれてしまい、最大限の努力をすれば幾分かの可能性もあるかもしれないという思考に進展しないのを経験している。提案・提言をとことん掘り下げる土壌がなくては、村づくりは醸成しないと思う。

●1年前に、ようやく1つの消防提案を実現に持っていくことができたが、他の団ではとうに実現しているものだった。今後、一つ一つ列挙してトライしたいと考えている。

●今後の喫緊の課題として、6カ月後位にはコロナワクチンが開発され、国民に接種されるのではと予想するが、本村における課題は「いかに早く村民にワクチンが打てるか」である。村づくりに「ものづくり」「制度づくり」も重要だが、コロナ禍の日本を取り巻く現下からは「村民の命を守る」が、究極の村づくりの第一歩ではないか。

T ●少子化、高齢化の課題解決が第一。

●開き直りの精神で、少ない子どもと多くの年寄りとが、互いを助け合いながら楽しく暮らしているむらづくりをめざすこと。

5. 住民や行政との協働の取り組みについて

【住民との協働】

- E ●村内すべての地区での集まりへの参加や、村内各種団体等での講演を通じて、地域住民の健康に対する意識の向上や、知識の習得を支援する。
- H ●各地区の喫茶を巡回し、食を通して人との交流を広める。
- N ●鳥獣の隠れ場となる耕作放棄地に対する刈払いや収穫残渣の除去、正しい侵入防止柵の設置等、地域ぐるみで総合的な被害防止対策が必要である。

【行政との協働】

- A ●保存会の活動を継続することで、文化財行政や観光振興に寄与していきたい。
- B ●具体的な活動は団体が行い、活動の前後にある支援を行政や住民などとの協働を得て実現できる体制づくりを要望する。
- C ●住民と行政ともっと話し合う場をつくり、行政の押し付けでなく住民が望むボランティアの精神で参加し助け合いをするようなシステムの構築が必要。
 - 農産物を生産することにより、田畑の耕作放任を防止し、食料自給率の維持と生産技術を継承し、農産物の販売をもって地域に貢献する。
- D ●村の広報誌への掲載や文化活動を披露できる場、学校や健康促進を図る場、自治会などでの出前授業や鑑賞会など、文化協会の広報の機会を設ける支援をお願いしたい。
 - くすのきホールの利用法の見直し。安価での使用や、落語やミニ芝居など多目的ホールとしての使用など、村民の交流の場として開放できるよう利用頻度を増やす。
 - ハワイエを歓談や展示場所、飲食の場としても使えるようにする。Wi-Fi の設置。
- E ●保健師等と連携し、特定健診、予防接種及び乳幼児健診等を積極的に受け入れ、村民の健康増進に寄与する。
 - 学校医として、児童の健康管理を行う。
 - 保健師等と連携し、認知症ケア事業や禁煙推進事業等に積極的に取り組む。
 - 国保診療所の理念を尊重し、千早赤阪村の保健、医療、福祉機関等と十分に連携を図りながら、限られた医療資源を効率的に運用することによって、村民に包括的で質の高い医療サービスを継続的に提供していきたい。
 - 不測の事態が起こった場合、村と協力し、村民に安心できるような医療を提供していきたい。

F●民間医療機関であるため、村国保診療所との連携は難しい。

G●国民健康保険運営協議会、介護保険事業計画推進委員会等の委嘱を受け、歯科医としての意見を述べていく。

●村の乳幼児歯科健診、成人歯科健康診査、学校歯科健診、学校歯科医業務などの実施。
訪問歯科診療については年齢的に実施が難しいため、村には医療機関と連携を持ち、実施してもらいたい。

H●村主催のイベントなどの時に、食に関する知識の普及活動。

J●人材センターの役割。誰でも健康で活躍したい。その受け入れ場所でありたい。入会することで趣味と実益も兼ね備えた楽しい場所でもある。

K●犯罪被害の防止。発生未然防止に向けた、日常の心構え。防犯委員の希薄化を防ぐため、日常の教養で気運を高める。

L●災害発生後の災害ボランティアセンターの設置運営に伴い、円滑な復旧活動が行えるよう、被害状況や行政の動き等に関する情報共有などの連携を図りたい。

●各種相談援助支援において見えてきた地域課題など、役場と連携しながら解決に向けた支援の構築を図りたい。

●小地域ネットワーク推進事業において、福祉委員での個別支援活動やグループ援助活動の効率化、多様化を図るため、福祉支援者への最新の情報提供を村広報誌も活用して行いたい。

M●高齢者の把握については、実態調査により課題が見えやすく、適切な支援機関につなぐことができおり、今後も高齢者名簿の閲覧及び情報提供をお願いしたい。地域二ーズの解決に向けて、役場と連携しながら支援を図っていききたい。

N●鳥獣被害対策実施隊に対する支援を継続するとともに、大字単位の各地区に鳥獣被害対策実施隊員を配置できるよう、わな猟免許の取得について働きかける。

O●若年世代への村内移住のPR。村の産業の活性。

P●用水路の補修。材料支給制度の拡充。

Q●子育てにおいて悩みを抱えている家族に、安心して子育てができる環境と支援を行っていく。

●教育講演会を通じて、子育ての知識を得る。

R ●全村民向け散歩の推奨の実現に向け、行政ともども企画、立案を検討する。

- 体協加盟団体の存続について、施設面と資金面での補助が必要。(会員の老齢化が進む)
施設面はテニスコートのオムニ化(身体の負担が少ない)。グラウンドの排水処理の老朽化。
- 運動施設周辺の美観化(植栽及び花)。

S ●消防団の人員対応については、「団員抛却支援金」制度の導入。基準人数以上の員数抛却には見合った「支援金」をその地区に交付する方法で、慢性的な人員不足はある程度食い止められると思う。

- 75歳位までの消防団OBによる「OB団」を再編するなど、戦力化することも一つの方法。他市町村では「女性防火隊」や「女性分団」、将来を見据え「少年、幼年」の消防予備体験グループを創設しているところもある。公権力の行使、労働基準法、児童福祉法の面でハードルは高いが、今後、是非一考してもらいたい。

T ●「村民のつどい」への参加を強く促す。

6. その他（千早赤阪村のむらづくりについて）

- A ●村の史跡や文化財を見て回ってもらえるよう、村内の道や駐車場、トイレの整備等を充実してほしい。
- 産湯の井戸が立入禁止のまま放置されているため、見学できるようにお願いしたい。
- B、D ●新しいことに取り組むには、規制される条例や法律、規則、慣例などが存在するかどうかと思うが、まずは行政に、自主的、積極的にそれらを打破できる方法、手段を考えてもらえればありがたい。
- C ●村の人口は減少するばかりで、企業誘致と言っても簡単に企業が入ってこれるような状態ではないと思う。
- 村は頭を切り替えて、住民と頭を突き合わせて協力しなければ。住民も行政もおしみなく働く、協力する。及び腰、逃げ腰では何も達成しない。
- 観光、もしくは産業で進めるのか、方向性を示す必要がある。農業技術を教えて後継者を育成する場づくりが、村づくりにつながると思う。
- E ●地域住民が積極的に健康づくり活動などに参加しやすい環境整備をしてもらいたい。
- 地域住民が自身の問題として、健康や環境などに関心を寄せるような広報活動を行ってもらいたい。
- G ●自院が閉院したら無歯科医村になるが、へき地での診療は採算が取れないので、今後新しい医院の開業は厳しいと思われる（町の歯科医院であれば、院外薬局で薬を渡すことができるため処方箋の点数も高く、薬の在庫を抱えなくてもいい）。
- 国・府・村などの何らかの支援などがないと、村内の開業は難しいのでは。
- 乳幼児歯科健診の際、虫歯のある子どもとそうでない子どもの差が大きい。口腔の状態は、子どもの虐待（ネグレクト）や母子の生活状況もわかるので、歯科健診情報を母子保健に活かしていく必要がある。
- H ●幅広く広報活動ができるようにしてほしい。食生活確保のためのサービスを充実させてほしい。
- I ●コロナ情勢下、リモートワーク、安全な住環境など、通勤もできる山間部として、このエリアの価値は上がっている。
- J ●人材センターの活動や人手増、PR活動に支援をしてほしい。
- K ●防犯活動を継続するための補助金の助成。防犯委員の人材確保。

- L●現在、村における介護予防や安否確認、地域での孤立化防止などの福祉施策は、地域のボランティアや福祉支援者を交えて事業展開されている。高齢化や人口減少に伴う福祉支援者の減少や事業継続の困難など、課題が浮き彫りになっており、人材確保や財源に関する支援をお願いしたい。
- M●地区によっては特に高齢化が進んでいるところもあり、民生委員児童委員のみでは支援（見守り支援等）が行き届かない部分が多い。今後のさらなる高齢化に備えた体制づくり等を、検討してもらいたい。
- O●日本国内で人口減少に歯止めがかからない今、村を続行していくことの難しさを村民に伝えることが大切かと思う。どのようなライフラインが止まってしまうのかを伝え、地域ごとの活動の合理化、自立等を促しては。
- Q●若者にとって魅力ある村づくりをしていかない限り、人口減少による村消滅は逃れられない現実がある。
強みがあるところから発展的なアイデアを出し、スピード感を持って実行していくことが必要。小さな村だからこそ、早い動きができる考える。
- R●ジャンルを絞り、村の発展を考える。
●人口減少問題：産業、学校の誘致。村の知名度を上げる。
●歴史・文化：楠正成の文化遺産を発展、宣伝し、彼に関与する市町村とネットワークを作り、全体で押し上げるためにイベントを考える。NHK放映依頼等（政治力が必要）。
●特産物：昔の高野豆腐みたいに、村の特長を出した産物を見出し、押し進める。
- S●遊休地の放置はないか。例えば富校（分校）跡地、小吹台の方転地等は再利用の計画や処分を検討すべき。例えば、太陽光（ソーラー）発電の設置で、庁舎の電気代を賄う工夫の検討等。
●本村消防団と分署をすべて民営化する構想。本村に存在する防火対象物レベルなら、民営消防隊で十分対応可能で、経費の圧縮と新たな雇用の確保の創造につながる。問題点は「救急運営」。
●新興住宅地開発については沙汰やみだが、拡張路線は取らないのか。するとしても、何がハードルか検証はしたのか。村づくりは結局「税収の確保」で、要素として企業誘致、住民の入居、雇用の確保は王道手段であることはいうまでもない。その前提として、既成のものに大改革を加える必要があり、例えば、土地利用の線引きの見直し、段階的税率の緩和、保育園・幼稚園・小・中・高の学費、医療費の無料化の導入等々は、検討すべきである。
●本村が行政体として成長進展が望めないなら、過去にトライした他市町との合併も視野としては必要。駄目なら「飛び地合併・吸収」。「姉妹都市提携・協定」等を一段上に踏み

込んだ、行政連携的な組織の衣替えが図れないか模索すべき。共同で自治体を運営する感覚があってもいいのでは。

- 村づくりにおいては、行政人が主体ではなく、住民の理解、住民と合同、住民間の議論を広く徹底的にやった結果を、村づくりに向けるのが本筋ではないか。本村の成り立ちは地方交付税で生きているわけで、赤字再建団体、地方交付税、交付団体、不交付団体など、これらの適用条件を住民が知る必要があるが、残念ながら本村では、知らせることをしていないに等しい。村の限界集落化等の予想を語り、そこから行政も住民も這い上がることが、本村の村づくりの原点だと考える。
- 認定こども園のように、本村のあらゆる機関、団体の集約化をもっと積極果敢にやるべき。
- アンケートについて、できもしないことを羅列した感は拭えないが、何百回の提言の中から、一つでも可能性を見い出すきっかけになればと思う。

T●コンサルタントだのみからの脱却！